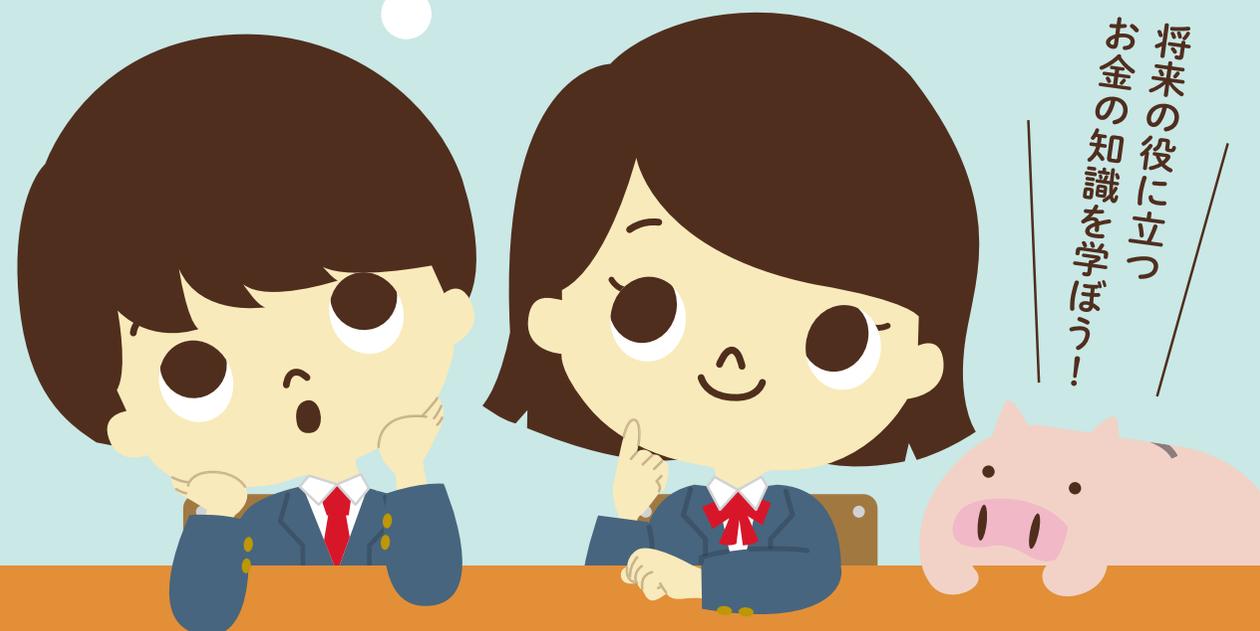


はじめての お金の時間

使う 貯める 借りの流れを考える



2024年4月発行

発行：金融経済教育推進機構



はじめに

自分のお小遣いで買う食べ物やまんがなどのちょっとした買い物、一生懸命お金を貯めて買うゲーム機や洋服といった大きな買い物など、普段の生活のなかでお金を使う機会は皆さんにもあると思います。

また、皆さんの家庭でも、食費や電気代、水道代、家の家賃やローン、教育費、将来のための貯蓄など、いろいろな形でお金と関わっていると思います。

この先、皆さんが「お金」と上手に付き合っていくためには、正しい知識を身に付けて、自分自身で判断し、選択していくことが必要になります。

そこで、この教材では、お金を「使う」「貯める」「借りる」の3つの場面から、収入や支出、貯蓄やローン・クレジットなどを学んでいきます。

この教材が、お金に関する知識を学び、それを生活に活かしていく力を身に付けるのに役立つ「お金の時間」を提供できれば幸いです。

2024年4月
金融経済教育推進機構

キャラクター紹介



あゆむ

まんがとゲームが大好きな中学2年生。自転車を買うためにお金を貯めているが、なかなか思うようにいかない。お金に関する知識は“ゆめこ”から教えてもらうことが多い。



ゆめこ

“あゆむ”と同じ学校に通う中学2年生。高校生活に向けての計画を立て始めたしっかり者。お金に関する知識が豊富。

あゆむの家族



お父さん



お母さん



お兄さん
(大学生)

目次

1. お金を使う

p3~8

- ① お金はどこからやってくる? p3~4
・「働くこと」を考えてみよう ・「収入」ってなんだろう
- ② お金はかしく使おう p5~6
・「消費支出」と「非消費支出」 ・1か月の支出例 ・必要なもの・欲しいもの
・「生活設計」と「マネープラン」
- ③ キャッシュレスってなに? p7~8
・大昔のお金 ・「円」の誕生 ・「お金の役割」について
・現金ではないお金(キャッシュレス)の種類と特徴

2. お金を貯める

p9~12

- ① どうしてお金を貯めるの? p9~10
・お金を貯める「目的」 ・お金を貯める「方法」 ・貯めたら増やす?
- ② どうしてお金を預けるの? p11~12
・「預金」はどこまでできるの? ・銀行の3大業務 ・銀行の役割
・間接金融と直接金融 ・「銀行口座」を開設したい

3. お金を借りる

p13~16

- ① 「クレジット」について p13~14
・「クレジット」とは ・「三者間契約」の仕組み
・支払い方法によって支払い総額が変わる?
・クレジットカードのメリット・デメリット ・クレジットカードの発行枚数
- ② 「ローン」について p15~16
・「ローン」とは ・「ローン」で買えるのは、どんなもの?(ローンの種類)
・「金利」と「頭金」を考えよう ・「銀行」によって金利は違う? ・「信用」とは?
・「多重債務」とは? ・「貯める」と「借りる」どちらがよいか?

用語索引

p17

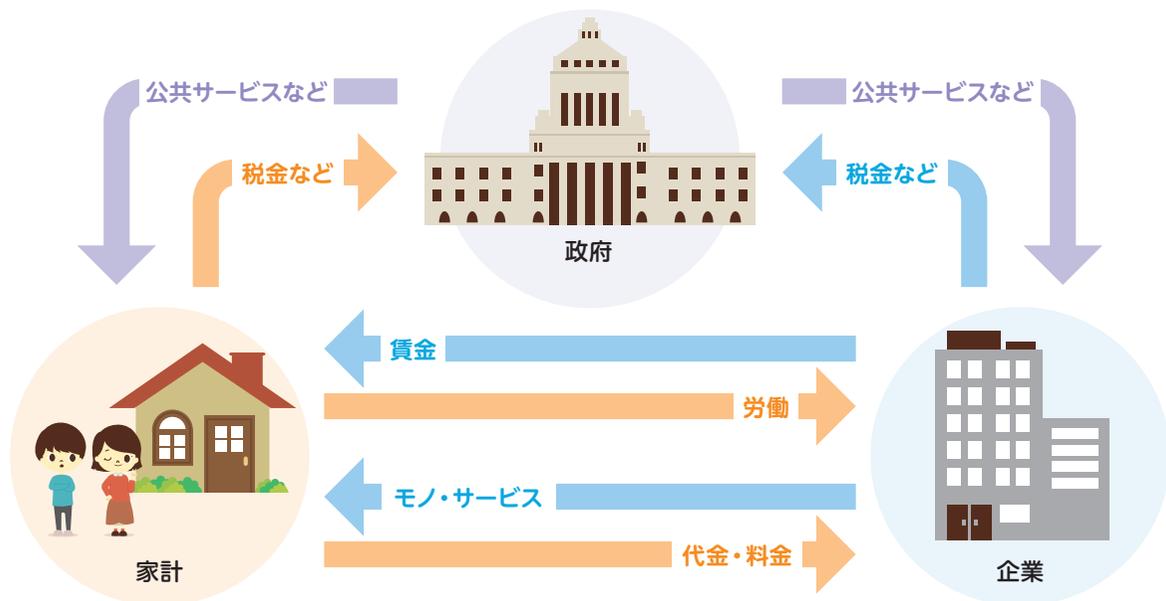
1. お金を使う

① お金はどこからやってくる？

「働くこと」を考えてみよう

「働く」ということは、単に生活に必要な収入を得るだけでなく、仕事を通じて社会の「経済活動」に参加することでもあります。

具体的には、製品を生産・販売する、サービスを提供するといった活動を通じて人々の生活に役立つことです。また一方では、仕事で得た収入の中から、税金や社会保険料などを納め、社会の一員として国や地方自治体に貢献することです。



新入社員の就労意識は？

新入社員の就労意識(仕事をするに対する考え方や価値観などのこと)について聞いたアンケートがあります。16の質問に対する回答結果は、次のようになりました。

総じて、ポジティブないし積極的な姿勢が上位を占めています。

1位	社会や人から感謝される仕事がしたい	93.9 (+1.0)
2位	仕事を通じて人間関係を広げていきたい	92.5 (-1.6)
3位	ワークライフバランスに積極的に取り組む職場で働きたい	91.8 (-0.8)
4位	どこでも通用する専門技術を身につけたい	90.4 (-0.8)
5位	高い役職につくために、少々の苦勞をしても頑張る	81.5 (+1.8)

※「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合(%)
()内は平成30年度調査比
出典：公益財団法人日本生産性本部／一般社団法人日本経済青年協議会「平成31年度 新社員働くことの意識調査結果」

「収入」ってなんだろう

「収入」とは、「入ってくるお金」のことです。

社会人になって「お金を稼ぐ」ことができるようになったら、「手取り収入」を把握することが大切になります。「手取り収入」とは、手元に来るお金のことで、例えば給料をもらう会社員等であれば、「給与支給額」から「税金」や「社会保険料」などの「非消費支出」が差し引かれた金額です。「額面」と「手取り」の金額が違うことを理解しておきましょう。

非消費支出について P.5

給与明細の例

支給 (円)	基本給	時間外手当	通勤手当	家族手当	資格手当	住宅手当	総支給額 ^{※1}
	200,000	20,000	10,000	0	0	20,000	250,000
控除 (円)	社会保険料				税金		控除総額
	①健康保険	②厚生年金	③雇用保険	④介護保険	⑤所得税	⑥住民税	
13,000	23,790	1,500	0	4,840	9,625	52,755	
差引支給額 ^{※2}							197,245

* 上記の金額は一例であり、実際の金額とは異なる場合があります。

- ①健康保険 病気やケガをしたときに、一定の自己負担で医療を受けることができる制度
- ②厚生年金 老後・障がい状態時・遺族の生活費などを保障する制度
- ③雇用保険 労働者の生活を安定させるための制度。労働者が失業した際の失業手当や、就職活動を支援する技能修得手当など
- ④介護保険 40歳以上の人が加入していて、介護が必要になったときに所定の介護サービスを受けられる制度
- ⑤所得税 個人が1年間で得た所得に対してかかる税金
- ⑥住民税 住所地の都道府県と市区町村に納める2つの地方税の合計

※1 総支給額(額面給与) 基本給や各種手当などの総合計額のこと
※2 差引支給額(手取り給与) 額面給与から社会保険料や税金が差し引かれた、実際に受け取る金額のこと

税金や社会保険料は、何のために支払うの？

納税は、国民の義務の1つで、私たちが健康で豊かな生活を送るために欠かせないものです。納められた税金や社会保険料は、国や地方自治体などによって、公共サービスの提供や、もしものときの社会保障として使われます。例えば、病気やケガをした場合に、一定の自己負担で治療が受けられるのも、社会保険料を支払っているからです。

税金や社会保険料は、基本的には収入の多い人ほどたくさん支払う仕組みになっています。ただし、社会保険料は一定の上限額が決められていて、収入に応じて無限に増えるわけではありません。

1. お金を使う

②お金はかしこく使おう

「消費支出」と「非消費支出」

支出には、2つの種類があります。

消費支出

家計において、商品やサービスを購入するために支出される生活費のこと。主な内容は以下の通りです。

費目	主な品目	費目	主な品目
食料	食料、酒類、外食など	保健医療	医薬品・診療代など
住居	家賃・設備修繕維持費など	交通・通信	自動車購入費・ガソリン代・携帯電話通信料など
光熱・水道	電気代・ガス代・水道代など	教育	授業料・補習教育など
家具・家事用品	白物家電・食器類など	教養娯楽	テレビ・パソコン・宿泊料・受信料など
被服及び履物	和服・洋服・履物など	諸雑費	理美容サービス・用品など

出典：総務省「家計調査」における10大費目

非消費支出

家計における生活費以外の支出のこと。所得税・住民税などの直接税[※]や、年金保険料・健康保険料などの社会保険料などが含まれます。

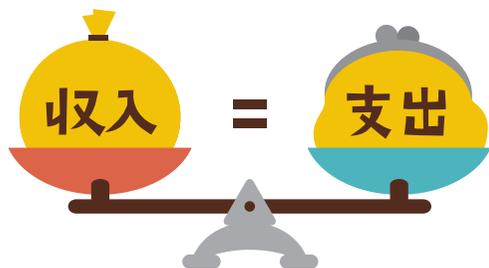
※「直接税」は、税を納める人と負担する人が同じ税金。「間接税」は、税を納める人と負担する人が異なる税金です。たとえば、消費税は、消費者が負担し、事業者が納めるため、間接税に分類されます。

1か月の支出例

右の表は35歳未満の勤労単身者[※]の平均的な支出の例です。

お金の使い方は、その人の生活のしかたや、趣味などによって変わります。

思わぬ出費に備えて、収入と支出のバランスに気を配りながら、少しずつでもお金を貯めることも必要です。



費目	割合	金額
食料	16%	36,000円
住居	15%	35,000円
交通・通信	9%	20,000円
教養娯楽	8%	19,000円
光熱・水道	3%	8,000円
家具・家事用品	3%	7,000円
被服及び履物	3%	6,500円
保健医療	2%	5,000円
教育	0%	0円
その他の支出	9%	20,000円
貯蓄	32%	73,500円
合計	100%	230,000円

出典：総務省「家計調査年報2021年」[単身世帯35歳未満]の支出を参考に作成

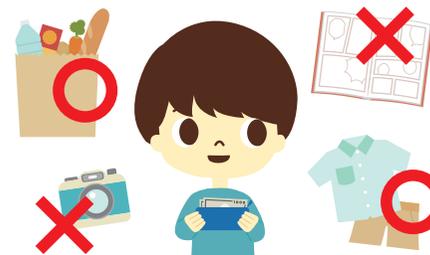
※会社などに勤めていて一人で暮らしている人

必要なもの・欲しいもの

お金を使う「支出」は、「収入」があってはじめて成り立ちます。「収入」に見合った「支出」の計画、「収入と支出のバランス」が大事になります。

自分にどれくらい収入があるか把握し、その中でどれだけお金を使うかを考えなければなりません。

ですから必要なものと欲しいものの優先順位を考えて、「必要なものを先に買う」といった計画を立て、常によりよい選択を行っていく必要があります。同時に、将来に備えてお金を貯めておくことも必要です。



「生活設計」と「マネープラン」

お金と上手に付き合っていくためには、きちんとした計画性が必要です。将来、どんな生活をしたか、そのために何が必要かを考えて、それをきちんと計画することを「生活設計」といいます。また、その生活設計を実現するために、どのように収入を得て支出をしていくか、お金に関する計画をすることを「マネープラン」といいます。

夢の実現のためには、働きながら専門的な勉強をするなど、自分の価値を高めていくことが必要な場合もあります。そうした「自己投資」も含めて、人生でどのようにお金を使っていくか、決めるのは自分自身です。長期的な視点を持たず、その場限りの判断でお金を使ってしまうと、将来の夢や理想の生活を実現することは難しくなってしまうでしょう。

マネープランを考えるに当たっては、時間をかけて必要な額を「貯めて」から使う方法と、先にお金を「借りて」から使い、後から時間をかけて返す、という方法を使い分けることがポイントです。

「生活設計」のポイント

人生には「進学」、「就職」、「結婚」、「出産・子育て」、「家の購入」など、様々な選択があり、それをどのように選択していくかで「生活」は変化していきます。どんな生活を送ってみたいか、考えてみるとよいでしょう。

「マネープラン」のポイント

マネープランには、「1か月」、「1年」などの短期的なもの、「数十年」という長期的なもの2通りがあります。いずれも大事なことは、「現状を把握すること」と「先を見通すこと」。生活設計と合わせてしっかり計画を立ててみましょう。

人生に必要なお金(平均費用)一例



一人暮らし
月々12.9万円

出典：総務省「家計調査年報2021年」



結婚費用
371.3万円

出典：リクルート「ゼクシィ結婚トレンド調査2022」



教育資金[※]
811.1万円

出典：文部科学省「令和3年度 子供の学習費調査」/日本学生支援機構(JASSO)「令和2年度学生生活調査」



土地付き注文住宅
4,456万円

出典：住宅金融支援機構「2021年度 フラット35利用者調査」

※幼稚園～大学すべて国公立。学費に生活費は含まれない。

1. お金を使う

③ キャッシュレスってなに？

大昔のお金

大昔、人々は自分の物と他人の物を交換して、欲しい物を手に入れていました。しかし、物々交換にはお互いの欲しい物が簡単に一致しないなど、難しい点がありました。

- そこで、
- ・誰でも欲しいと思うもの
 - ・集めたり分けたりすることができ、誰もが納得できる価値の大きさを表せるもの
 - ・持ち運びやすく、保存できるもの

これらの条件を持つ、布や穀物、砂金などの品物が交換の手段として使われるようになりました。これが「物品貨幣」といわれるものです。中国の殷・周の時代には、寶貝が「物品貨幣」として使用されていました。お金に関係のある漢字に「貝」がつくものが多いのは、そのためです。

日本最古の貨幣は、708年に造られた「和同開珎」（わどうかいちん）とされていますが、さらに古い7世紀後半に造られたとされる「富本銭」（ふほんせん）が、1998年に奈良明日香村の飛鳥池遺跡で発見されました。



寶貝

「円」の誕生

江戸時代までの日本では、各地で金や銀を中心としたさまざまなお金があり、両替するときの相場も一定ではありませんでした。明治維新によって明治政府が誕生したあと、新政府は日本全国で使える新しい通貨制度をつくることを決めました。そして1871年に、今使われている「円」という単位の新しい貨幣が生まれました。円(えん)・銭(せん)・厘(りん)という10進法単位で、金貨が貨幣の基本となり、銀貨や銅貨は金貨をおぎなうものでした。

新貨条例

1871年5月、新貨条例が制定され、貨幣制度の全国統一と金本位制が実現しました。純金二分(1,500ミリグラム)を円の定量とし、円の100分の1を銭、銭の10分の1を厘とする十進法による貨幣単位も定められました。

日本のお金の単位「円」について

日本のお金の単位である「円」の由来については、いろいろな説がありますが、当時の資料がないためはっきりしていません。有力な説としては、

1. 硬貨の形が丸いから
2. 当時、中国(香港)で流通していた銀貨に「円」という単位が使われていたから

等があります。

「円」と決まる前は「元」という案もあったようです。現在の中国の貨幣の単位は「元」ですが、通貨の表示は「圓」となっているのも関係があるという説もあります(「元」は「圓」の略字です)。

また、1872年から「円」をローマ字で「YEN」と表示していますが、

1. 「EN」とした場合、外国人がエンと発音しにくい(当時、江戸が「YEDO」と表記されていたのも同じ理由かもしれません)
2. 中国では昔、お札の単位であった「円ユアン」を「YUAN」と表示しており、これが「YEN」に変わった
3. 外国の常用語「en」(フランスでは「中」、オランダでは「と」、「そして」の意など)と同じ綴りになるのを避けた

という説がありますが、これもはっきりしたことは不明です。

出典：独立行政法人造幣局ホームページ「貨幣に関すること 貨幣Q & A」

「お金の役割」について

いつでも、どのようなものでも交換できるというお金の役割によって、私たちは欲しいものを手に入れることができます。お金には「交換」の役割を含め、3つの役割があります。

モノやサービスと交換

お金は、交換(決済)を行う時の支払い手段として利用できます。

モノとモノの交換(物々交換)では、お互いの持っているモノ同士をすんなりと交換するのは大変です。しかし「お金」という価値に置き換えることができれば、いつでも好きなものと交換したり、決済したりできます。



価値をはかるものさし

お金は、あらゆる品物に値段をつけることで、モノの価値をあらわします。

モノとモノの交換(物々交換)では、持ち主同士がそれぞれ話し合っ取り決めをしなければなりません。しかし、お金という価値に置き換えることができれば「このノートは1冊100円」「この定規は1本100円」というようにモノの価値が同じ尺度ではかれます。モノをお金という価値と比較し、「高い」「安い」といった判断ができます。



貯めておける

お金は、貯蓄することで、将来に備えて価値を蓄えることができます。

モノがたくさんあっても、腐るなどして価値が減ってしまうことがあります。お金は、貯めておけば好きなときにモノと交換ができます。金額は減ることはなくこのように「蓄える(貯めておける)」ことができるのもお金の魅力です。



現金ではないお金(キャッシュレス)の種類と特徴

電子マネーやクレジットカードなど、現金を使わずに支払うことを「キャッシュレス」といいます。キャッシュレスにもさまざまな方法があり、それぞれの特徴(支払いのタイミングや手数料の有無など)を理解して、自分に合った方法を使い分けることが大切です。

支払いのタイミング	カードの種類	QRコード決済 / バーコード決済	注意すること
前払い	プリペイドカード	● 前払いの方法は、商品が提供されないなどのリスクがあるので、支払先が信用できるか確認する必要がある。 ● 多くのプリペイドカードには有効期限が決められているので、使用期限を確認する必要がある。 ● 電子マネーでチャージ(入金)した金額が不足した場合、不足分は現金で支払う。 ● 銀行振込は、銀行口座の預金残高が足りない場合は、支払いができない。	
	電子マネー(プリペイド型)		
	銀行振込		
同時支払い	デビットカード	● デビットカードは、銀行口座の預金残高が不足すると、引き落とし(支払い)ができない。ネットショッピングでは、商品入手前に支払うことになる。 ● 代引きは、代引き額を手元に用意しておく必要がある。	
	代引き		
後払い	クレジットカード	● 手元にお金があなくても買い物ができるので、使い過ぎてしまう可能性がある。 ● 支払い日に口座残高が不足しないよう注意が必要。 ● 分割払いは返済回数により、支払い終了時期が異なる。	

※ QRコード決済 / バーコード決済においては、先に現金でチャージを行う、支払いと同時に銀行口座から代金を引き落とす、登録したクレジットカードで支払うなど、支払方法は様々です。 ※ QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

後払いできる「クレジットカード」は、持つためには、収入があり、支払い能力があることなどが求められます。なお、2022年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられたため、18歳以上であれば法律上は保護者等の同意は不要になりましたが、審査の結果等によっては、クレジットカードを作れない、あるいは、保護者の同意が必要になる場合があります。

クレジットカードについて P.13、14

2. お金を貯める

① どうしてお金を貯めるの？

お金を貯める「目的」

みなさんはお金を貯めていますか？どのような目的でお金を貯めていますか？「欲しいものを手に入れるためにお金を貯めている」という人が多いのではないのでしょうか。

「貯蓄をしている目的はなんですか」というアンケートへの回答を見てみると、「老後の生活資金」が62.8%と最も高く、次いで「病気や不時の災害への備え」が47.2%となっています。

「不時」というのは、予定外の時、思いがけない時ということで、事故や事件、自然災害などが発生することをいいます。

将来お金が必要になる場合に備えて、今は使わず「貯蓄」することも大切です。

参考：知るぽると「家計の金融行動に関する世論調査[単身世帯調査] 令和4年調査結果」



お金を貯める「方法」

お金を貯める方法は、「**家庭で貯める**」「**銀行などに預ける**」の2つの方法があります。それぞれの特徴を理解して、自分に合った方法でお金を貯めていけるようにしましょう。

	メリット	デメリット
家庭で貯める	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要なときに現金がすぐに使える 	<ul style="list-style-type: none"> ● お金を使ってしまいやすい ● お金をなくしてしまう可能性がある ● だろぼうなどにお金を盗まれる可能性がある ● 貯めている以上に金額は増えない
銀行などに預ける	<ul style="list-style-type: none"> ● しっかり管理されているので、盗まれない ● 利息がつく(金利によって利息の額は変わる) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 銀行やATM^{※1}に行かないと、現金が手に入らない ● お金の預け入れ、引き出しに手数料がかかる場合がある ● 銀行が破たんした場合、一定額以上は保護されない可能性がある

※1：ATM：Automated Teller Machine 現金自動預払機

「預金保険制度」とは？

「預金保険制度」とは、万が一、銀行が「破たん」したときに、預金を守ってくれる制度のことです。生命保険などと違い、利用者が保険料を払うのではなく、銀行などの金融機関が「預金保険機構」に保険料を払っていて、預金者が安心してお金を預けられるようにしています。

銀行などの金融機関が破たんした際には、対象となる預金について1つの金融機関で利用者1人当たり、預けたお金1,000万円までとその利息の合計額が預金保険によって保護されます(決済用預金は全額保護されます)。それ以外の預金については、破たんした金融機関の財産の状況に応じて支払われます(一部カットされる場合があります)。

貯めたら増やす？

当面の生活に必要なお金以外は、「お金に働いてもらう＝資産運用」を考えることも必要です。将来のライフプラン実現のために、まずは貯めたお金を目的に応じて3つに分けて考えていくとよいでしょう。

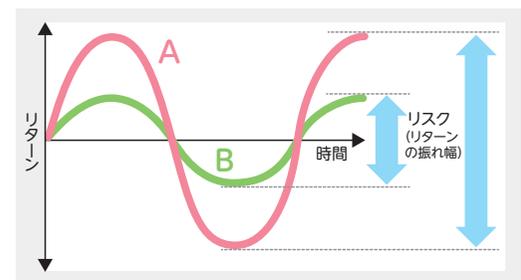
目的に応じたお金の分け方

<p>流動性資金 いつでも使えるお金</p> <p>生活資金など毎日必要なお金や、急な出費にいつでも引き出せるお金。</p> <p>例) 普通預金など</p>	<p>安定性資金 しっかり貯めるお金</p> <p>住居の購入や教育資金、将来のために安定的に管理したいお金。</p> <p>例) 定期預金、債券(個人向け国債)など</p>	<p>収益性資金 ゆっくり増やすお金</p> <p>しばらくの間使う予定のない余剰資金で、ある程度リスクをとっても運用して将来のために増やしていきたいお金。</p> <p>例) 外貨預金、投資信託、株式など</p>
--	--	--

リスクとリターン

お金を運用(投資)する場合には、「リスクとリターン」を知っておく必要があります。ここでいうリスクとは下のグラフのように、投資によって期待されたリターン(成果)の振れ幅のことです。下のグラフでA(ピンクの線)はB(緑の線)よりも、振れ幅が大きいです。ですからAの方がBに比べると「リスクが大きい」といえます。

グラフのように、リスクとリターンは、表裏一体の関係といえます。「リスクが大きいものほどリターンが大きい(ハイリスク・ハイリターン)」、「リスクが小さいものほどリターンが小さい(ローリスク・ローリターン)」という傾向があることを覚えておきましょう。



※上記はイメージ図であり、実際の値動き等を示すものではありません。

利息について

利息の計算方法には、「単利」と「複利」があります。単利は、預けた元本(金額)のみに利息がつくもので、複利は預けた元本(金額)と利息を足したものに利息がつくものです。

元本(金額)が2倍になるおおよその期間は「72÷金利」で計算できます(72の法則)。

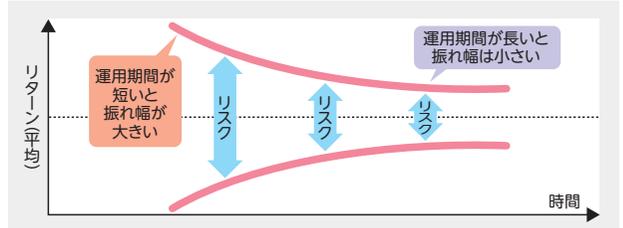
リスクを抑えるために①「分散投資」

投資先を1つにしぼらず、いくつかに分散することで、リスクを抑えられます。



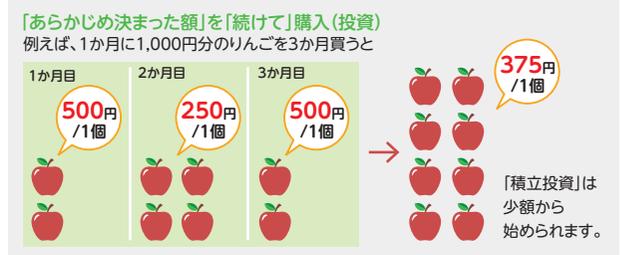
リスクを抑えるために②「長期運用」

長期間で運用成果をあげることを目標にする考え方です。



リスクを抑えるために③「積立投資」

定期的に投資をすることで、安いときに買わなかったり、高いときにだけ買ってしまったりするのを避けられます。



2. お金を貯める

② どうしてお金を預けるの？

「預金」はどこでできるの？

「預金」は「銀行」でできます。

銀行とは、預金の受入、資金の貸付、手形の割引、為替の取引などを主たる業務とする金融機関のことです。

その種類には、都市銀行や地方銀行、第二地方銀行、外国銀行、インターネット銀行、流通系銀行などがあります。

※現在、日本の銀行法では、内閣総理大臣の免許を受けて銀行業を営む者とされており、「預金又は定期積金の受入と資金の貸付け又は手形の割引」とを併せ行うこと「為替取引を行うこと」のいずれかの業務を行うところと定義されています。

銀行法の主な規定

- 銀行業の営業には内閣総理大臣の免許を受けることが必要
- 休日や営業時間も別途政令で定めると規定
- 商号に銀行という文字を使用しなければならない
- 法令違反や公益を害する場合、内閣総理大臣は取締役の解任命令や免許取消が可能
- 支店や営業所の設置、位置の変更や廃止には原則、届け出が必要

銀行の3大業務

銀行の主な業務は、「預金」「貸出」「為替(かわせ)」の3つで、3大業務と呼ばれています。

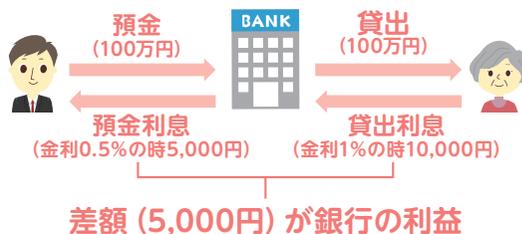
預金業務とは？

個人や会社などからお金を預かる業務です。銀行は預け入れられたお金に対して利息を払います。



貸出業務とは？

個人や会社などから預かった預金を、お金を必要としている個人や会社に貸し出す業務です。銀行は貸し出した個人や会社から利息を受け取ります。貸出業務で得た利息と、預金で支払う利息の差額が銀行の利益になります。



かわせ 為替業務とは？

お金の受け渡しを現金ではなく、銀行口座間の資金移動等によって行う業務です。例えば、個人や会社などが遠方の人にお金を支払うときや、多額のお金を支払うときに銀行の為替業務を利用すれば、現金を持ち歩くことなしに支払うことができます。



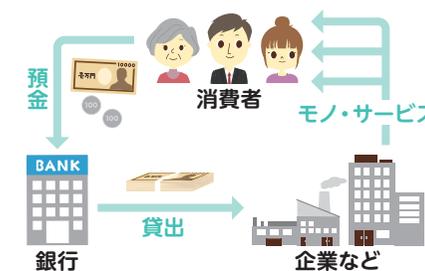
銀行の役割

銀行は「3大業務」を行うことで、経済社会の潤滑油としての役割を果たしています。つまり、すぐに使わないお金を持っている人からお金を預かり、お金を必要としている人に貸すことで、お金が経済社会の発展のために有効活用されていくようにしているのです。みなさんの預金も、銀行を通じて、社会に役立っているのです。

企業は銀行から借りたお金で人を雇ったり、設備を整えたりすることで、製品をつくったり、便利なサービスを社会に提供できるようになります。例えば、多くの人が家や車を購入したり、おいしくて安全な食べ物を買ったり、遊園地やカラオケなどで楽しく、便利なサービスを利用することができるのは、企業が銀行の「預金」や「貸出」の機能を利用しているから、ともいえます。

また、こうした仕組みがあることで、みなさんも「ローン」や「クレジット」が利用できるようになっています。このように、お金を預かったり、個人や企業、国や地方公共団体にお金を貸したり、といったお金の流れを作る仕組みを一般的に「金融」といい、これらの業務を行う機関を「金融機関」といいます。「金融機関」には、銀行や証券会社、保険会社などがあります。

クレジットカード・ローンについて P.13~16



間接金融と直接金融

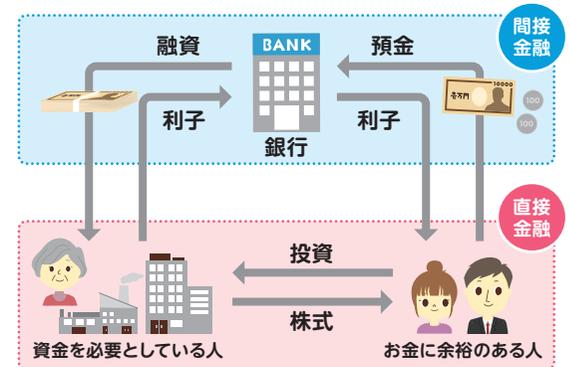
企業や政府(国・地方自治体)は、金融のしくみを利用して、必要なお金を集めています。

銀行などの金融機関からお金を借りることは、金融機関が個人や企業などから預かったお金を間接的に借りることになるので「間接金融」といいます。

この場合、貸したお金が戻ってこないリスクは金融機関が負います。

一方、企業や政府(国)が株式や債券(国債・地方債・社債)などを発行することで、個人や企業などから直接お金を集めることを「直接金融」といいます。

この場合、貸したお金が戻ってこない場合のリスクは株式や債券を買った個人や企業が負います。



「銀行口座」を開設したい

銀行で預金口座を作るとき、一般的に本人確認書類と印鑑が必要です(アプリやウェブサイトでは印鑑を不要にしている銀行もあります)。

本人確認書類とは、あなたの住所、氏名、生年月日などを確認するために求められる公的な書類で、パスポートや健康保険証、運転免許証、マイナンバーカードなどがあてはまります。

口座開設の方法は銀行によって異なるので、口座を開設したい銀行に確認する必要があります。

また預金口座は未成年でも作ることができるのが一般的ですが、必要な書類は銀行によって異なることがあるので、こちらもそれぞれの銀行に確認する必要があります。

なお、自分の口座を他人に売ったり譲ったりする行為は犯罪です。絶対に行ってはいけません。



3. お金を借りる

①「クレジット」について

「クレジット」とは

クレジット(credit)とは、英語で「信用」という意味です。商品などを買った時点では代金を支払わず、後から支払う約束のことを指します。買い物のたびに申込書を書いて利用を申し込む方法(個別方式)と、利用限度額の範囲ならいつでも何回でも利用できるクレジットカードがあります。

「クレジットカード」には①**支払い機能**や②**借入機能**があり、銀行のキャッシュカードとは機能が異なります。

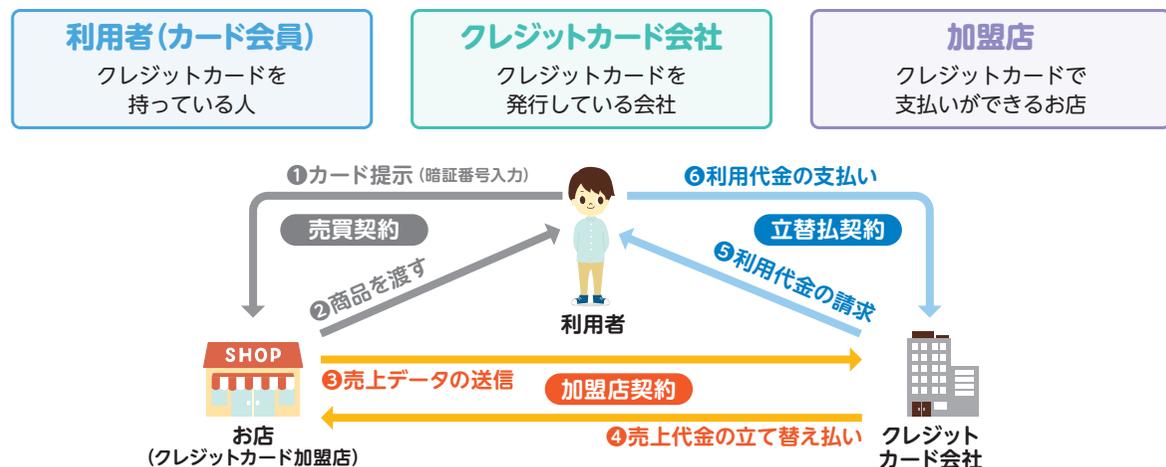


クレジットカードの主な機能

支払い機能	お店のレジなどでクレジットカードを提示し、本人のサインや暗証番号で、商品やサービスを買うことができる機能です。インターネット通販の支払いなどにも使用できるのが一般的です。
借入機能	クレジットカードには、買い物の支払いだけでなく、お金を借りるキャッシング機能も付いています。利用限度額が決められていて、指定のATMなどで現金を受け取ることができます。
その他の機能	カードを提示して所有者本人であることを示す「身分証明書」としての機能(ID機能)や、付属サービスとして、指定のお店などでの割引やポイントサービス、盗難保険や旅行保険が付いているカードもあります。

「三者間契約」の仕組み

クレジットカードは三者間契約です。



利用者がクレジットカードで買った物の代金は、まずクレジットカード会社が立て替えてお店に払い、利用者は後から、代金をクレジットカード会社に(銀行口座からの引き落としなどで)支払います。

クレジットカード会社は、立て替えたお金を利用者に払ってもらわなければなりません。ですから、クレジットカードを作る際には、「必ず後で払ってくれる」という、利用者の「信用」が必要になります。

クレジットカードで支払うことは、クレジットカード会社からお金を借りているのと同じことです。支払いを「延滞」してしまうと、あなたの「信用」に傷がついてしまいます。

※カードを発行するクレジットカード会社と加盟店と契約するクレジットカード会社とが異なり、四者間契約になることもあります。

「信用」について P.16

支払い方法によって支払い総額が変わる?

クレジットカードの利用代金の支払い方法は、「一括払い」「分割払い」「リボルビング払い(リボ払い)」があり、買い物時に選ぶことができます。分割払い、リボ払いは手数料がかかるので、利用代金より多く支払うことになります。

	一括払い	分割払い	リボルビング払い
利用代金を、翌月あるいは翌々月に一括で支払う方法です。手数料がかからないので、利用代金と同額を翌月あるいは翌々月に支払います。またボーナス月に、利用代金を一括で払うボーナス一括払いという方法もあります。	利用代金を指定する回数に分けて支払う方法です。支払回数が多いほど、一度に払う金額を減らすことができます。ただし、支払回数が多いほど手数料がかかります。2回払いは分割払いですが、手数料がかからないのが一般的です。	リボルビングとは「回転」という意味です。つまり、リボルビング払いは、毎月の支払い額を一定額に抑えて、利用代金の残高がなくなるまで支払う方法です。分割払いと同じく、手数料がかかります。分割払いよりも手数料の金額が多く設定されています。	
10万円の商品を購入した場合の支払い方法と支払い総額の違い 手数料15%の場合。算出方法などの違いによって、実際の金額とは異なる場合があります。 リボルビング払いは毎月1万円を支払う場合。			
月々の支払い額	100,000円	(3回払い) 34,170円	10,000円
手数料の総額	0円	2,510円	6,674円
支払い総額	100,000円	102,510円	106,674円

クレジットカードのメリット・デメリット

クレジットカードのメリット・デメリットを理解して、生活の中で上手に活用していきましょう。

メリット	デメリット
①後払いにすることができる いま手元にお金を持ってなくても、カードを使えば、後で払うことができます。	①使いすぎる(借りすぎる)心配がある お金を使っている感覚がなかったり、いくらカードで買ったか分からなくなったりしてしまうことがあります。後からお金が足りなくならないように、買い物と支払いの計画をしっかり立てることが必要です。またキャッシング機能では、簡単に借金が増える分、借りすぎに注意が必要です。
②通販などでの支払いが簡単 インターネットなどの通信販売で物を買った場合、クレジットカードに対応していれば、カード情報を相手側に登録することで、支払いができます。	②分割払いやリボルビング払いなどは手数料がかかる 分割払いやリボルビング払いにすると、支払回数などに応じ、所定の手数料がかかります。後から「思ったよりもお金がかかった」ということがないように利用することが必要です。
③現金をたくさん持ち歩かなくてもよい 例えば、高価な物を買うときや、海外へ行くときなど、現金をたくさん持ち歩くのは危険な場合は、クレジットカードがあれば、カードだけで買い物ができます。	③悪用される危険がある 落としたり盗まれたり、またインターネット上で登録したカード情報が盗まれたりすると、勝手に使われてしまう危険性があります。しっかりとした管理が必要です。
④分割払い・リボルビング払いにすることもできる 高価な物などを買う場合、一度に支払う負担が大きいときは分割払いにすることもできます。	

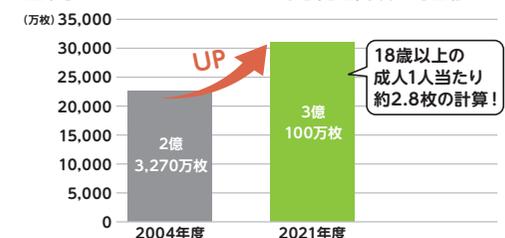
クレジットカードの発行枚数

2021年度に日本国内で発行されているクレジットカードの枚数は約3億100万枚、利用額はショッピングとキャッシングの合計で約73兆円です。

これを18歳以上の人口1人当たりで見ると、クレジットカードを約2.8枚持ち、年間に約66万9千円のショッピングを行い、約1万2千円のキャッシング(借入れ)をしていることになります。

※家族カード等を含むすべてのカードの合計枚数。
 出典：一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード発行枚数調査[年次統計]」[クレジットカード動態調査結果]

国内クレジットカード発行部数の推移



3. お金を借りる

②「ローン」について

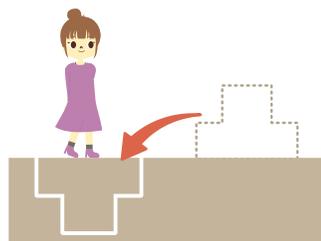
「ローン」とは

ローン(loan)とは、英語で「貸す」という意味です。一般的には「お金を貸す」意味で用いられています。「貸す」ことは立場を変えれば「借りる」とことと同じなので、ローンは「お金を借りる」という意味でも用いられています。

家を買う、進学に必要な学費を支払うなど、まとまったお金が必要なときに、手持ちのお金(貯蓄)だけでは足りないことがあります。

後から少しずつ必ず返済約束をして、先にお金を借りて必要なときにお金を使いたいなど、今、お金が必要なときに「ローン」はとても便利です。

ただし、お金を借りて買うということは、将来の収入を見込んで、先にお金の使い道を今、決めてしまうことになるので、慎重に考える必要があります。



「ローン」で買えるものは、どんなもの?(ローンの種類)

「ローン」で買う大きな物に「住宅(家やマンション)」、「自動車」などがあります。そのほか、入学金や授業料などの学費をローンで支払うこともあります。これらは、使用目的が決まったローンであることから、それぞれ「住宅ローン」、「自動車ローン」、「教育ローン」などと呼ばれます。このほか、使用目的を特定しない「カードローン」もあります。

名称	住宅ローン	自動車ローン	教育ローン	カードローン
目的	家や土地・マンションを買う	自動車を買う	入学金や授業料などを支払う	使い道は自由 あらかじめ決められた限度額内なら 何でもお金を借りられる仕組み
一般的な返済期間	~35年	~7年	~15年	数か月~10年程度

「金利」と「頭金」を考えよう

「ローン」を利用する際には「お金のレンタル料」である「金利」と、「頭金」を考えることが大切です。ローンは、借りる金額・期間に応じて所定の利率の「金利」が付き、この分を上乗せして返済します。使用目的を特定しないもの、期間が長いものは、一般的に金利は高くなるので、支払う利息は多くなります。

また家や車をローンで買うときに、そのとき自分が持っているお金を「頭金」として払うことができます。頭金を払うことで借りるお金が減るので、支払う利息も少なくて済みます。

この「金利」と「頭金」をしっかり考えないと、余計にたくさんのお金を後から払うことになるので、注意が必要です。

「銀行」によって金利は違う?

ローンは、「お金のレンタル料」である金利を上乗せして返済します。

商品の価格がお店によって違うように、同じ種類のローンでも銀行(金融機関)によって金利は異なります。また、金利は常に一定ではありません。国内の景気や物価、金融政策によって常に変動しています。そのため、ローンを利用したいときには、今の金利が高いのか低いのか、今後の金利はどうなりそうか考える必要もあります。

「信用」とは?

お金は、誰でもいくらでも借りられるわけではありません。お金を借りるためには「信用」が必要です。具体的には次の「4つのC」で表すことができると言われています。

Character [人格] 借りたお金を期日までに返さなくてはならないことをきちんと理解し、そうしようとする意志があるかどうか。	Capacity [支払能力] 借りたお金を滞りなく、返済していけるだけの収入があるかどうか。	Control [自己管理] 自分の返済能力の範囲内で計画的に利用し、計画的に返済することができるかどうか。	Capital [資産額] または Collateral [担保] 収入が減ったり、病気やケガなどで働けなくなる事態が生じたとしても、返済が滞らないだけの資産を持っているかどうか。あるいは十分な担保があるかどうか。
---	---	--	---

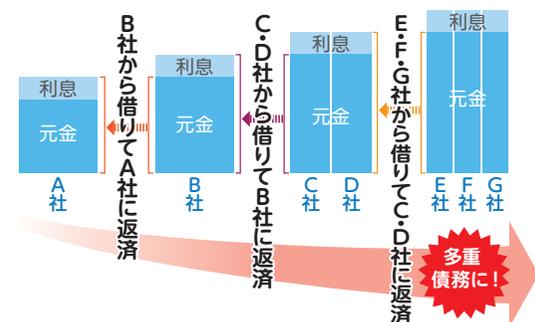
「多重債務」とは?

複数の業者から借金をして、返済が困難になっている状態を多重債務といいます。

目の前の借金を返せず、ほかから借り入れた借金で返すことを繰り返すと、借金がどんどん雪だるま式に増える一方となってしまいます。

多重債務におちいってしまう理由はさまざまですが、多重債務の相談者が借金をしたきっかけでもっとも多いのは、低収入や収入の減少であることが明らかになっています。

出典：多重債務問題及び消費者向け金融等に関する懇談会 第9回(平成29年6月12日開催)資料1



「貯める」と「借りる」どちらがよいか?

ローンやクレジットを使えば、今はお金がなくても欲しい物がすぐ買えますし、とても便利ですが、借りて使ったお金は返さなくてはなりません。「貯める」「借りる」どちらかが必ず正解とは限りません。買う物や金額、今の収入や将来の計画などによって、自分に最適の選択をしていかなければなりません。それぞれの特徴を確認してみましょう。

場面	注意すること
借りる 今はお金がなくても、将来の収入を見込んで(返済する計画を立てて)お金を借りれば、「家を買う」、「子どもの教育費を払う」のような、今必要なことにお金を使うことができます。	「お金のレンタル料」である金利がかかる 借りるお金には、金額と返済期間に応じた金利がかかります。返済は借りたお金(元本)に金利を上乗せした金額になるので、結果として、借りたお金よりも多くのお金を返さなければなりません。 返済計画どおりに返せない可能性がある 最初に立てた計画は、金額が大きく、そして期間が長くなるほど思い通りにならなくなるリスクがあります。病気で仕事を休み、収入が減ってしまった、もっと必要なものを買うためにさらにお金を借りてしまった、などいろいろなことが考えられます。
貯める 自分で貯めたお金なら、使い方を自由に選択できます。最初は家を買うために貯めていたお金でも、必要に応じて途中で車を買うために使ってもよいですし、旅行に使うこともできます。病気などで仕事ができず、一時的に収入がなくなった場合でも、貯めてあるお金があると安心です。	本当に必要なときに貯まっているとは限らない 家や車などの金額が高い物を買うお金を貯めるには時間がかかりますから、必要な物を必要な時に買うことができなくなる可能性があります。例えば、子どもが生まれたから広い家を買おうと思っても、貯まるまで待っていたら、子どもはもう大人になってしまうかもしれません。 強い意志が必要 目標額を決めて計画どおりにお金を貯めるには強い意志が必要です。無駄使いいばかりしてしまうようでは、いつまでたっても貯めることは難しいです。

「貯める」、「借りる」どちらがいいのか、その判断はどのようにすればよいのでしょうか。大事なことは、自分の収入と支出を考え、生活設計してみることです。

用語索引

あ		た	
一括払い	14	多重債務	16
ATM	9,13	単利	10
か		長期運用	10
介護保険	4	貯蓄	5, 8, 9, 15
家計	3, 5	積立投資	10
貸出	11, 12	デビットカード	8
株式	10, 12	電子マネー	8
為替	11	は	
間接金融／直接金融	12	バーコード決済	8
キャッシュレス	7, 8	非消費支出	4, 5
QRコード決済	8	複利	10
金利	9, 10, 11, 15	プリペイドカード	8
銀行／銀行口座	9, 11, 12, 13, 15	分割払い	8, 14
クレジット／クレジットカード	8, 12, 13, 14, 16	分散投資	10
健康保険	4, 5, 12	ま	
厚生年金	4	マネープラン	6
雇用保険	4	や	
さ		預金	9, 11, 12
債券	12	預金保険制度	9
三者間契約	13	4つのC	16
資産運用	10	ら	
支出	5, 6	リスク／リターン	10
社会保険料	3, 4, 5	利息	9, 10, 11, 15, 16
収入	3, 4, 5, 6, 8, 15, 16	リボルビング払い(リボ払い)	14
所得税	4, 5	ローン	12, 15, 16
住民税	4, 5		
信用	13, 16		
生活設計	6, 16		
税金	3, 4		
成年年齢	8		

はじめてのお金の時間
 ～ 使う・貯める・借りるの流れを考える ～
 2024年4月発行
 編集・発行
金融経済教育推進機構